第43回「議員と語ろかい」報告書

文教厚生常任委員会（№1）

開催日	令和　５年　11月　１日　　15時　30分　～　16時　30分		
開催場所	議会棟　４階　第３・４委員会室		
団体名	霧島市社会保障推進協議会	参加人員	６人 （男　４人：女　２人）
出席議員	久保　史睦、山口　仁美、野村　和人、竹下　智行、川窪　幸治、 阿多　己清、前川原　正人		
役割分担	班　長（久保　史睦）副班長（山口　仁美）記録係（山口　仁美）		
テーマ及び具体的な内容	子どもの医療費現物給付・介護保険料 子どもの医療費現物給付の早期実現・介護保険料、介護サービス等、安全・安心で住みやすい霧島市にするための意見交換		

意見交換での主な意見等	◆は参加者の発言　　◇は議員の発言 （自己紹介の中で） ◆3月議会で、こども医療費の件採択してもらって感謝している。県は継続審議中で、医師会も最近前向きになったと感じている。市議会には、今後も支援していただきたい。 ◆介護保険の総合事業について意見交換をした。市町村によって得意不得意ある。特に予防をどうするかは課題。軽度の場合の総合事業のあり方は課題だ。財政力ある地域（鹿児島市）や、地域の結びつきの強い場所（日置市等）では、色々進んでいる。認知症予防に関しては、霧島市はとても進んでいると評価している。 ◆介護保険はどこも同じ制度。事業者のアンケートでは、７割が人手不足と答えている。これは国レベルでどうにかしないといけない課題。危機感を共有してほしい。 ◆ケアマネージャーも減っている。在宅でのヘルパー事業所が減っている。 場所によっては一箇所もないところもある。今後どうなるのかを本気で考えていかないといけない。地域包括支援センターへの支援を充実させて民間への負担を減らすことができないか？

意見交換での主な意見等	◆は参加者の発言　　◇は議員の発言 ◆サービスと結ぶ役割を担うケアマネージャー、不足するとサービスが途切れる。ヘルパーがどうやりがいをもってやっていくか、事業所側の悩みを聞く場があってもよいのではないか。 ◆お年寄りが増えた実感がある。１人で大丈夫か？という人、１人暮らしの方が多い。子供が海外や県外、友人はいるが責任を持ってもらえるわけではない。何があった時の対応は介護保険の大きな役割である。 ◆ゴミ出しなどの生活支援について、比較的軽度の方は通所で維持している。ケアマネージャーが少ないと、ケアプランが立たない。歳をとっても住み良い街を実現するためには、介護保険の充実が大切だ。 ◆介護保険の種類は非常に多い。保険料を払いながら１割負担も払っている。少ない人は月に５～６万円のなかから、年金や税金を払っている。通所は１日６～７時間、残りの時間にヘルパーが入って在宅生活が成り立つ。霧島市では要介護５でも家族介護者が頑張っている場合が多い。住宅改修は２０万円までしか出ないので、入浴については通所サービスを使っている。 ◆医療・介護を守るためには、若い子たちの県外流出を減らす必要がある。賃金が安すぎると言って別の業種に転換していく。結婚ができないほど給与が安いという話がある。 ◆抱える介護からの脱却のため、補助具への支援が増えると良い。 ◆川原、木原、牧之原地区など、医療過疎地域の人の依頼を、距離の問題で受けられない。どうにか手を伸ばせないか。 ◆2025年には高齢者のうち5.4人に１人が認知症と言われている。精神科はすでにパンクしている。公的な社会保障なので、守っていかないといけない。 （意見交換から） ◇給料は全国・地域・霧島でいくらくらいか。 ◆給与は事業所によって違う。看護師より介護職が低い。処遇改善費も、事業所によって様々だ。養育費など考えると、生活が心配になる費用。人間らしい生活ができない状況。 ◆支える側、介護を受ける側両方の介護保険料を下げられたら良いと思う。財源問題もある。

意見交換での主な意見等	◆は参加者の発言　　◇は議員の発言 ◇介護保険が始まって、制度が後退していっている。負担が大きくなっている。 市町村がやらなければならないことはある。牧之原に介護施設があったが、なくなった。悪循環が進んでいるようだ。介護職が虐待しているのも、報酬が少ないから鬱憤ばらししているのではないか。現場でもそういう問題があるか。 ◆認知症がひどいと、噛みつきなども多くある。介護側の恐怖感があると、つい手が出てしまうこともあるのではないか。給与の少なさに対するものではない。人を相手にする仕事なので、思わぬ場面に出会った時のストレスもあると考えてほしい。 ◆本質的には人手不足がストレスにつながるケースが多い。社会保障料の引き下げの議論も出ている。本市の基金は多いし、儲ける必要はない。介護の場合には予兆があるので、緊急の費用は考えにくい。長期のビジョンを持っていくべきである。 ◇介護の仕事について、現場は早く入れてほしいというが、人が少なすぎて人を選べない。介護職員は処遇改善手当がつくが、ケアマネージャーはつかない。ケアマネージャーより介護職員で働いた方が給与が良くなる逆転現象が起きた。給与の体制をしっかり見直さないと、なり手不足は加速する。 ◇ヘルパーになり手がいない。難しい仕事だが、介護福祉士を養成する学校自体がなくなってきている。国もしっかり介護業界に報酬を当ててほしいと思う。認知症については、子どもの頃からの教育も大切。2040年問題までにどうなっていくのかお金をどう用意するのか、シュミレーションをしていかないといけない。 ◆高齢者世帯に関しては、介護保険料は大きな負担だ。 ◇介護保険料を引き下げるべきと考えている。特別徴収は、年間18万円以上の年金受給者は天引き。18万円以下は払込用紙で払う。基金は、令和５年の出納閉鎖時で13億9,000万円ある。厚労省が2008年に通達を出しているので、市民が安心して暮らせるよう、しっかり考えていくべき。 ◆次期計画を立てる時期だが、議会としてのコミットが必要だと考えている。国の制度だが、市町村でできる支援もあるのではないか。市域が広い霧島市の交通費の問題など、考えられないか。 ◆介護保険料を下げてほしいというのは我々の想いだが、ふるさと納税の使い道の中に高齢者の介護・医療の項目を入れられないか。